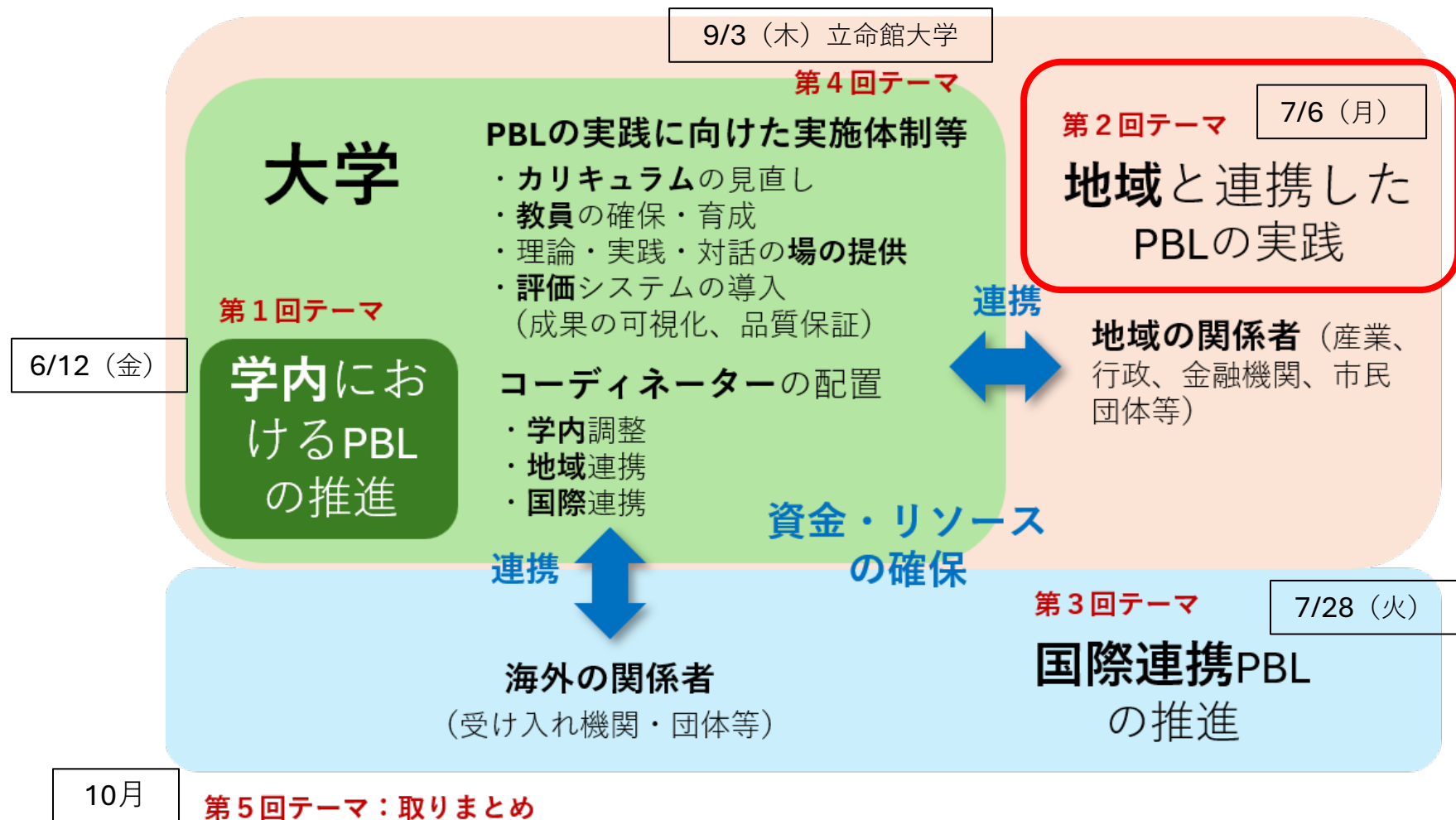


令和8年度 大学等における持続可能な地域づくりの担い手育成検討会

目的：昨年度の検討会の成果を踏まえ、大学の様々な組織形態による多様なPBLの取組事例や全体的な傾向を示すことにより各大学におけるPBL実践の再現性を高め、その体系化及びその推進に必要な施策等の整理を通じ、引き続き持続可能な地域づくりを支える人材を育成する



令和8年度 大学等における持続可能な地域づくりの担い手育成検討会

第2回検討会（7月6日）：地域と連携したPBLの実践

有識者（話題提供者）：

林 靖人 信州大学 サステナブル社会協創学環（仮称）副学長（エンrollment・マネジメント担当）／グリーン社会協創機構 副機構長

細目圭佑 宮崎大学 工学教育研究部（官民学連携/GX研究室責任者）特別准教授（龍谷大学 客員教授（大学PBL基幹システム開発））

検討委員：

（下線：本日まで参加）

持続可能な地域共創WG（地域WG）

座長 **阿部 匡伸** 岡山大学 理事（デジタルトランスフォーメーション・グリーントランスフォーメーション担当）／上席副学長

松本 亨 北九州市立大学 教授／環境技術研究所
カーボンニュートラル推進部門長

吉績 巳貴 立命館大学 食マネジメント学部 教授

持続可能社会の担い手育成WG（担い手WG）

岩本 泰 東海大学 教養学部 教授

小沢 晴司 宮城大学 事業構想学群 教授

庄子 真樹 宮城大学 研究推進・地域未来共創センター 准教授

二ノ宮リム さち 立教大学 環境学部 教授

環境省

黒部 一隆 大臣官房総合政策課 環境教育推進室 室長

第1回検討会（6月12日）：学内におけるPBL（課題解決型学習）の推進

有識者（話題提供者）：

北海道大学

横田 篤 副学長・特任教授

石塚 真由美 理事・副学長（国際、サステナビリティ、コンプライアンス統括）

三重大学

丸山 直樹 地球環境センター センター長／特命副学長（環境担当）／
大学院 地域イノベーション学研究科 副研究科長

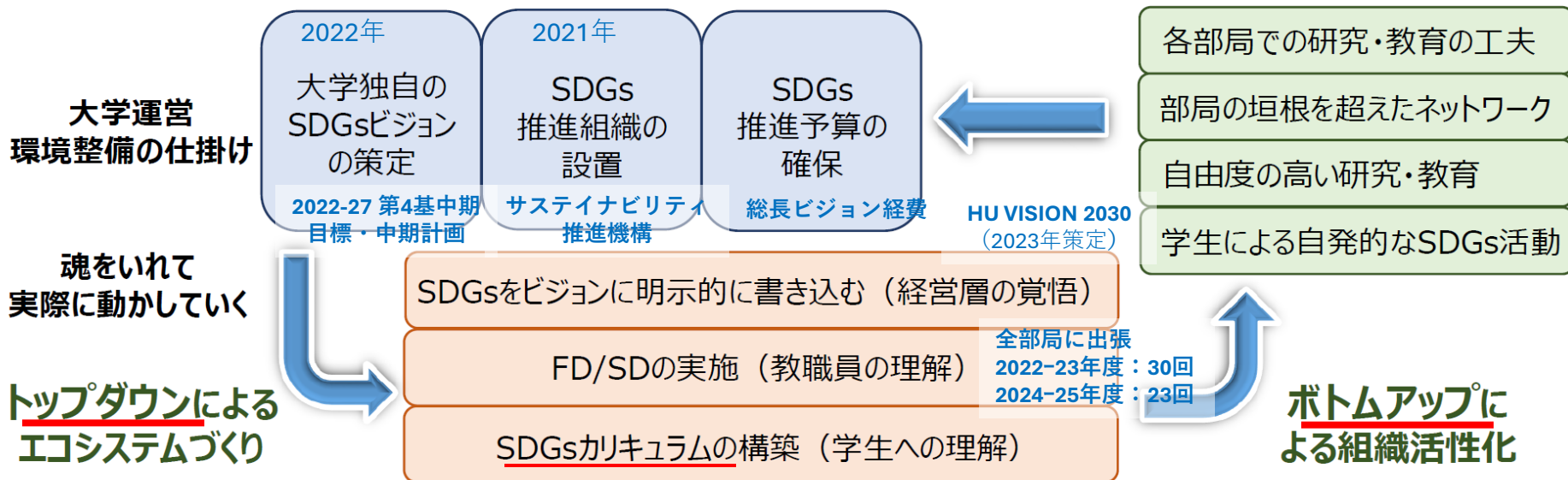
柿原 克治 施設部施設環境チーム／地球環境センター 施設環境課長

主な議論の振り返り

SDGsやサステナビリティを基盤とした大学力の強化スキーム（2024.3 策定）



- 各大学がそれぞれの**発展の歴史や特色（建学の精神など）を生かす**
- SDGsの枠組みを大学運営に生かしつつ、**サステナビリティやSDGsの概念を大学全体に浸透させる**



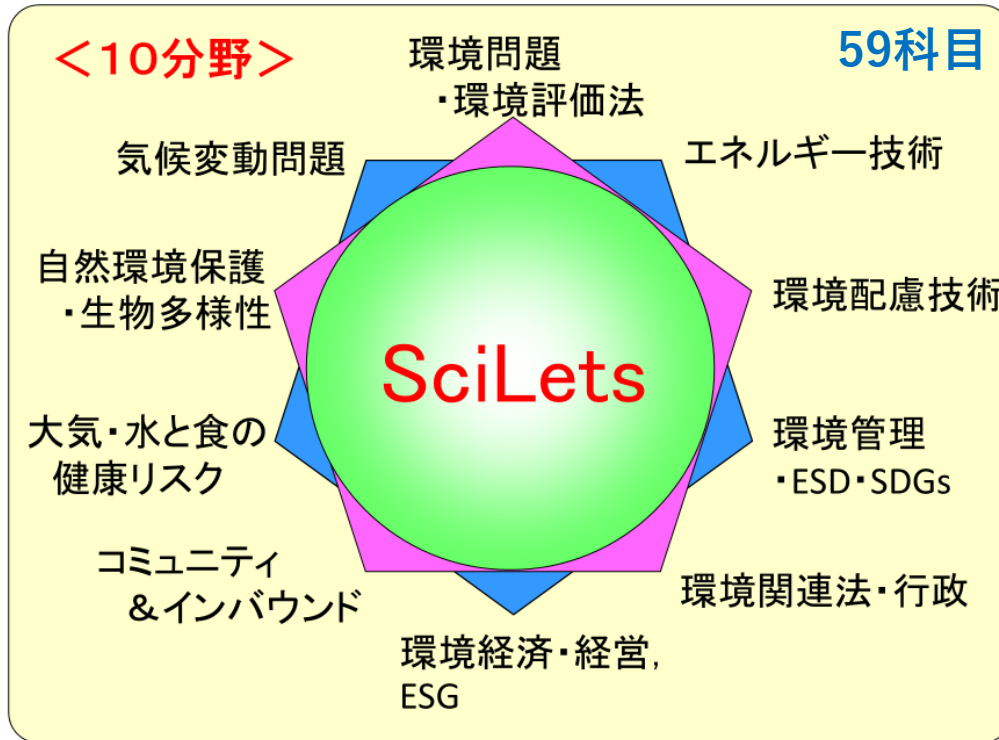
学生、教職員、経営層の**各自の活動が全てSDGsに繋がると言う気づき**を促し、**学内外のエンゲージメント（一体感と共感）の醸成や総合力の発揮、SDGsの枠組みからの倫理観の浸透**などを図り、大学の社会における必要性を高め、**社会的インパクトを高める**

THEインパクト
ランキング
6年連続 国内1位

「3年ほどかけてみんなで議論を重ねながら構築した仕組み」
「そうした共通基盤があった上で、すべての活動が回るべき」
北大・横田先生

<科学的地球環境人材 (Scientific, Local and Environmental “Talented Staff”) >

多面的な環境教材



特徴

- オンデマンド・ビデオ講義
いつでも・どこでも・何度でも
視聴できる。
- SciLetsは標準90分(45分×2テーマ)講義。
=>アナリスト認証
- (+)環境実践
- =>エキスパート認証



活用例

- 新入社員教育補助教材(企業)
 - リカレント教育(企業)
 - 情報収集(企業)
 - 社内資格の補助教材(企業)
 - 職員・社員の環境課題意識向上(自治体・企業)
 - 学生授業の補助教材(大学等)
- 社会人向け

地球環境科学概論Ⅰ 新入生全員(約1,150名)の必修科目
 必須科目(10科目) + 選択科目(4科目) 合格
 → 科学的地球環境人材「アナリスト」認定

地球環境科学概論Ⅱ 選択科目(後期) : 新入生の半数弱が履修

総受講者数 (約3,000人)
社会人 1,063名 学生 1,914名
アナリスト認定 (約1,000人)
社会人 512名 学生 421名